所属：岐阜工業高等専門学校　一般科目

研究タイトル：

# 物語の享受と展開

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名： | 中島泰貴　／NAKAJIMA Yasutaka | E-mail： | nakajima@gifu-nct.ac.jp |
| 職名： | 教授 | 学位： | 博士（文学） |
| 所属学会・協会： | 日本文学協会、名古屋大学国語国文学会 | | |



| | |
|---|---|
| キーワード： | 引用、話型、古典享受、読者 |
| 技術相談<br>提供可能技術： | ・現代語訳されていない古典籍の翻刻から現代語訳まで<br>・古典芸能鑑賞の手引き |

## 研究内容：「古典」の再生と享受

院政期から鎌倉時代にかけて生み出された王朝風の物語を、一般に中世王朝物語と称します。ですが、中世という時代に王朝風の物語を作る営みは自明ではなく、例えば現代に時代劇を作るようなものです。しかも、大河のような史実を踏まえた「本格」時代劇ではなく、時代考証のかなり怪しい勧善懲悪のテレビ時代劇。中世王朝物語も、例えば和歌のような本流を行く正統派文学では決してなく、あくまで「サブカル」だったこと、さらにそこで描かれる「王朝」が、理想化された想像の王朝であることなどを考え併せれば、この比定が飛躍しすぎたものではないことが分かるでしょう。しかし、今を生きる私たちの歴史観が、まじめな時代劇ではなく、荒唐無稽で怪しい時代劇にこそ養われているという側面、と同時にその怪しさを求めているのは他ならぬ今を生きる私たちなのだという現実を認めるならば、歴史とは物語の中でこそ繰り返し再生し続けているのだと言えます。つまりは、オリジナルではない模造品であるからこそ、中世という時代の読者共同体の無意識が、より直截に透けてみえる点に中世王朝物語の存在意義があります。このような関係は、王朝を「世界」という独特の概念として受け入れた江戸歌舞伎などにも受け継がれていきます。そして現代も、このサイクルの中にあると考えられます。「傍流」の古典享受こそが、古典を活性化させ、現代へと再生させる重大な原動力なのです。

## 提供可能な設備・機器：

| 名称・型番（メーカー） | |
|---|---|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |